

JR 吹田駅周辺まちづくり協議会「商店街の低炭素化と活性化の両立」

1. 取り組みの概要

- JR 吹田駅周辺まちづくり協議会では平成 21 年度より、エコ化事業推進委員会において「商店街の低炭素化と地域活性化」の両立に寄与するモデル商店街を目指している。
- JR 吹田駅前に立地する旭通商店街・新旭町通商店街・錦通商店街の 3 商店街で、太陽光発電設備やドライ型ミスト設備、高効率照明を設置し、低炭素化と同時に蓄電による売電事業による収益を基金化し、他の商店街への普及、エコ商店街化を計画している。

2. 商店街概要

商店街名	JR 吹田駅周辺まちづくり協議会
所在地	吹田市朝日町
構成数	12 団体（商店街参加数：8 ^(※1) 、計 441 店舗）
URL	

3. 取り組みに至る経緯・背景

- ✓ JR 吹田駅周辺まちづくり協議会（通称・まち協）は平成 21 年 4 月、自主独立組織として、「誰もが快適に安心して歩いて暮らせる「魅力とにぎわいのあるまち」の実現」を目指し発足している。構成員は市内 12 団体^(※2)が参加している。
- ✓ まち協の発足と同時期に、吹田市では国の地域活性化・経済危機対策臨時交付金を活用し、JR 吹田駅前商店街における商店街エコ化事業実施を政策決定する。
- ✓ その背景には、JR 吹田駅前商店街は吹田市の顔に当たる商業集積地域に当たるとともに交通量・人通りが多く、また関西大学らの調査に基づきヒートアイランド現象が著しいことから同取組に適う地域として挙げられている。
- ✓ まち協では同年 7 月、吹田市決定に合わせて商店街エコ化事業の実施主体に名乗りを上げることとし、協議会内に商店街エコ化事業推進委員会を設置、「JR 吹田駅前商店街エコブランド創出構想」の策定に取り組むこととなる。
- ✓ その後、商店街エコ化事業推進委員会では 18 回もの検討機会を重ね、同年 11 月、吹田市に構想提示している。
- ✓ まち協のエコ化事業構想のコンセプトとは、JR 吹田駅前商店街が日本を代表する「低炭素モデル商店街」と位置づけ、産・学・民・官協働による「商店街の低炭素化と活性化の両立」を目指すこととしている。
- ✓ コンセプト達成に向けた戦略プランは、①省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの積極活用、②過度な自動車依存からの脱却、③事業系ゴミの減量化、④自然資源の積極活用、⑤独自のエコポイント制度導入による集客向上と低炭素化の推進、などで

ある。

- ✓ 上記戦略プランのもと、短期・中期・長期の対策メニューを掲げている。

[図] エコ化事業構想に向けた戦略プランの対策メニュー

7. 「低炭素化と活性化の両立」を推進するための対策メニュー（例）

対策区分		主な対策メニュー例		
		短期(2020年)	中期(2030年)	長期(2050年)
目標設定 (2009年比)	CO ₂ 排出量	15%削減	25%削減	75%削減
	集客数	5~10%増加	10~20%増加	20~30%増加
	売上高	5~10%増加	10~20%増加	20~30%増加
ハード面	エネルギー対策	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>太陽光発電</u> ・<u>照明の高効率化</u> ・<u>CO₂の見える化</u> ・<u>ECO&活性化の面立「モデル店舗」の整備</u>…等 	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電設備の増設 ・<u>高効率機器の導入</u> ・<u>ESCO 的事業の展開</u>…等 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー(廃熱、地熱等) ・温度差エネルギー(地下水等) ・スマートグリッド…等
	交通対策	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>トランジットモール化(期間・時間限定型→終日型)</u> ・路上駐車対策 ・<u>アイドリングストップ</u>…等 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>駅前駐輪場と連携したコミュニティサイクルシステムの導入</u> ・電気自動車によるカーシェアリングシステムの導入…等 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気自動車と充電設備の普及 ・<u>共同集配システム</u>…等
	ゴミ減量対策	<ul style="list-style-type: none"> ・分別化・4R運動 ・マイバッグ、マイ箸・マイカップ・マイ水筒運動等 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>廃油の回収・利用</u>…等 	
	自然資本対策	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>ドライ型ミスト</u> ・<u>グリーンカーテン</u>…等 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種緑化(街路樹、ホケッパーク、グラスパーキング等) ・<u>未利用水資源の利用(打ち水、道路・緑地散水、公衆トイレ洗浄水、各種清掃水など)</u> ・保水性舗装、遮熱舗装…等 	<ul style="list-style-type: none"> ・せせらぎ水路 ・無水トイレ…等
ソフト面		<ul style="list-style-type: none"> ・<u>ECOポイント制度の創設・統一化・運用</u> ・<u>独自のECO協定&ルール等の制定</u> ・<u>ECOイベントの開催</u> ・足湯など健康イベントの開催(阪大足湯研究室と連携、予防医療の普及と推進)…等 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種講習会(環境家計簿、高効率機器普及促進、省エネ等) ・環境監視員・推進員の養成 ・環境ハトール ・店主や利用者への環境教育の実践…等 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>スマート商店街の構築(IT化、ネットワーク化、自動化)</u> ・商店街E&EMS化…等

注) 1. は2009年度整備工事メニュー
 2. は今後積極的に推進を検討していく対策メニュー(案)

(出典) まち協資料「JR吹田駅前商店街エコ化事業の取り組み状況」より抜粋

- ※ 1 JR吹田駅周辺8商店街：新旭町通り商店街、吹田市中通商店街、吹田さんくす名店会、吹田市栄通り商店会、吹田市本通商店会、吹田市旭通商店街、吹田市錦通商店街、吹田市片山商店会
- ※ 2 まち協構成団体(12団体)：JR吹田駅南地区商業活性化推進協議会、JR吹田駅周辺商店街ルネサンス事業実行委員会、片山地区ルネサンス事業実行委員会、吹田市JR以南コミュニティ協議会、NPO法人吹田歴史文化まちづくり協会、吹田市開発ビル株式会社、JR西日本吹田駅、吹田ケーブルテレビジョン、吹田市商業団体連合会、吹田商工会議所、吹田市社会福祉協議会、カフェたんぽぽ

4. 取り組み内容

(1) 取り組みの実態

- ✓ 戦略プランの短期事業のうち、平成 21 年度では実態調査とともにハード整備事業が取り組んでいる。
- ✓ 実態調査では、事業対象地（一体となったアーケード街を形成している、旭通・新旭町通り・錦通の 3 商店街を初年度のモデル地域に選定）に対して、関西大学らの協力により、二酸化炭素の排出量や商店街の賑わい、活性化などの実態把握のための調査を実施している。
- ✓ ハード整備事業では、3 商店街の計約 1.4 キロの区間に、太陽光発電パネル（186 モジュール）やドライ型ミスト（ノズル 1,044 メートル）、光量を調節して消費電力を減らす高効率照明（蛍光灯 203 基、看板灯は LED 化 72 基）、そして見える化モニター（協議会事務所前）を設置工事している。

〔図〕 JR 吹田駅前商店街（3 商店街）のエコ化設備の設置状況①



（出典）まち協資料「JR 吹田駅前商店街エコ化事業の取り組み状況」より抜粋

- ✓ いずれの設備も平成 22 年 7 月から稼働し始めており、ドライ型ミストは 7 月から 9 月の 3 か月間の朝 11 時～17 時の間、自動制御（気温 30 度以上、湿度 70%未満で自動散布）運転する仕組みである。

〔写真〕 JR 吹田駅前商店街（3 商店街）のエコ化設備の設置状況②



(出典) まち協資料「JR 吹田駅前商店街エコ化事業の取り組み状況」より抜粋

(2) 事業取組に至るまでの問題点とその対応

- ✓ 事業推進に当たって、各商店街の商店主向けの取組説明を行ったが、ドライ型ミストを設置する旭通および錦通商店街の一部商店主（特に店先に商品を展示しているお店）からミストシャワーによる商品被害（濡れてしまうなど）の懸念が挙げられている。
- ✓ 旭通商店街の歩道幅員は 5m、錦通商店街の歩道幅員は 3m であるが、設置テストではミスト（細霧）が空中散布中にかき消されてしまうことから商品に影響を与えずに済みことが分かり、商店主からの苦情などの問題は起きていない。
- ✓ 事業資金面については、国の交付金や今後創設の基金に基づいている主旨理解とともに商店主自らの懐が痛まらずに済む仕組みであるために大きな混乱はなかった。

(3) 事業運営上の問題点とその対応

- ✓ 平成 21 年度事業の設備設置に当たっては、①旭通商店街の既設アーケードの真上に太陽光発電設備（パネル）を積載することは構造上困難であった、②ドライ型ミストを広く普及するには水道料金の値下げが不可欠である、などが挙げられた。
- ✓ その太陽光発電設備については、当初 260 モジュール（1 モジュール当たり 0.19kwh）の設置計画から軽量化を図るために 186 モジュールに軽減するとともに支柱を建て太陽光発電設備を斜行型に設置しアーケード街を覆うことで構造上の負担軽減を図っている。

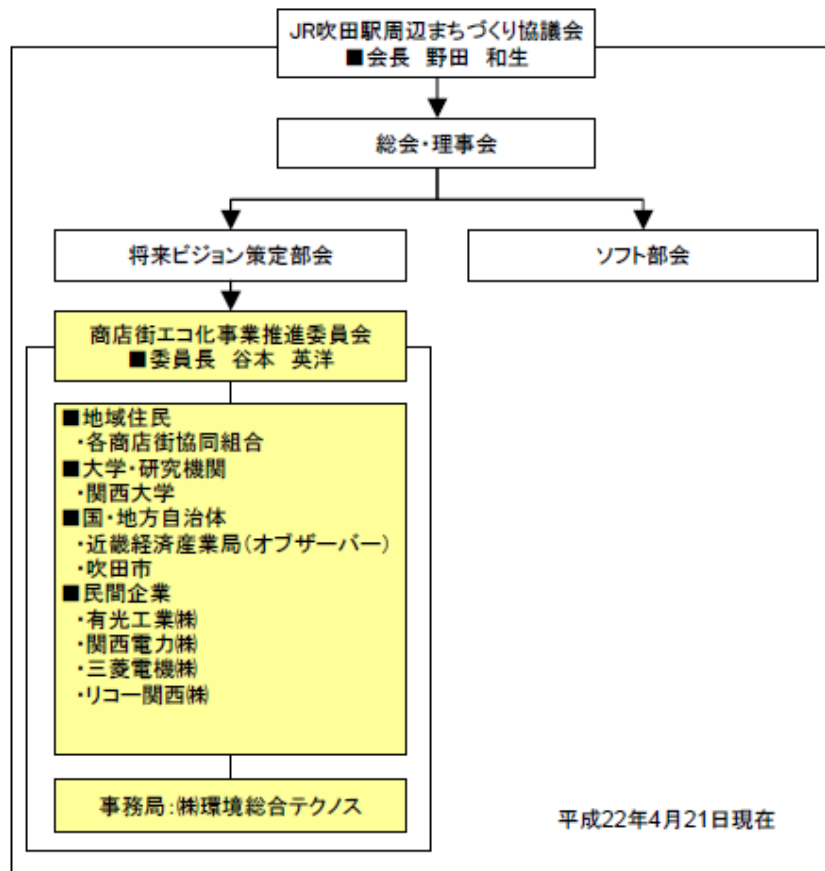
(4) 事業継続のポイント

- ✓ エコ化商店街を目指す設備整備事業は、初年度の経済効果（特に太陽光発電設備から得られる電力を関西電力に売却）を原資に、エコ化基金の創設を目指している。
- ✓ その基金を元手に、22 年度以降のランニングコスト資金とともに他の 5 商店街（協議会参画している残りの 5 商店街）への設置拡大化の軍資金に充てていく事業継続スキームを組み立てている。

5. 地域とのつながり

- ✓ まち協では、JR 吹田駅前商店街（9 商店街、現在 1 商店街は脱退中）を中心に、市民活動団体、関西大学、近畿産業経済局、吹田市、そして地元企業などが連携・協力し合う、協働関係に置かれている。
- ✓ まち協会長には新旭町通商店街協同組合理事長（野田和生氏）、商店街エコ化事業推進委員会委員長には旭通商店街協同組合理事長（谷本英洋氏）が就いている。

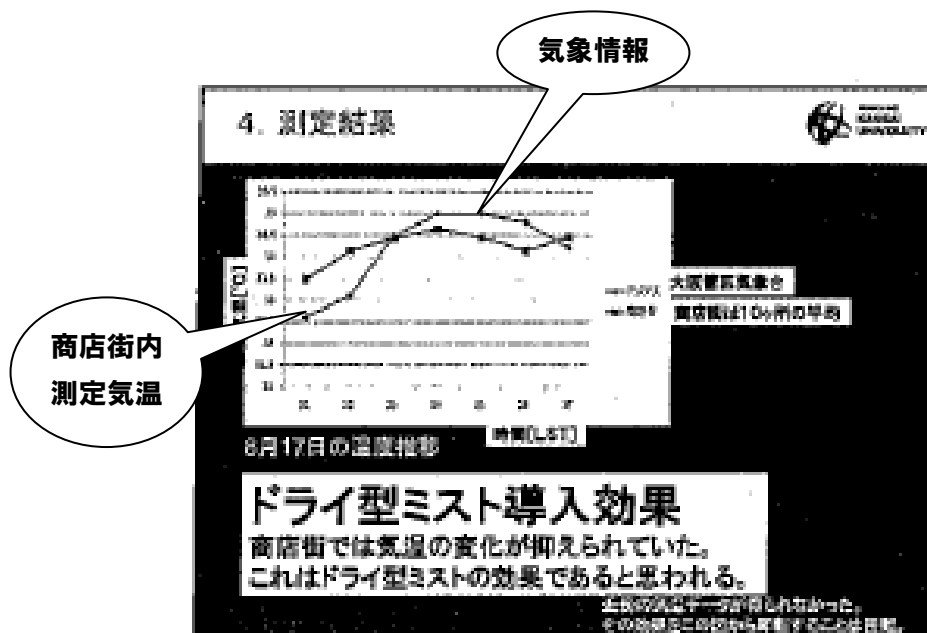
[写真] JR 吹田駅前商店街エコ化事業関係者



(出典) まち協資料「JR 吹田駅前商店街エコ化事業の取り組み状況」より抜粋

6. 取り組みによる成果

- ✓ 平成 22 年度（初年度）の事業経過報告会（JR 吹田駅周辺商店街エコ化対策工事 効果検証報告会、平成 22 年 10 月 30 日）によれば、ドライ型ミスト事業の効果としては、今夏の猛暑などその時々気候変化に左右されるため単年度のみの測定では効果としてみるには厳しいとの見方が強いなか、ミスト散布はアーケード街における気温変化の抑制には貢献していたものと推察している。



(出典) まち協資料「JR 吹田駅周辺商店街エコ化対策工事 効果検証報告会」より抜粋

- ✓ また、太陽光発電設備による事業効果は、CO2 削減効果に関しては測定期間（平成 22 年 6-9 月）において以下のとおり、約 282 本の杉の木（50 年杉を想定）の CO2 吸収量に相当するほどの結果を得ている。

	発電量 (kWh/4ヶ月)	CO ₂ 削減量 (kg-CO ₂ /4ヶ月)
合計	13,181	3,941
備考	約12世帯が4ヶ月で消費する電気使用量に相当	約282本の杉の木(50年杉)のCO ₂ 吸収量に相当

※0.299kg-CO₂/kWhで計算

■世帯あたりの電気使用量は281.6kWh/月(2008年度)として試算
※電気事業委員会資料より

■杉の木一本(50年杉/直径が約20～30cm)は11年間に平均して約1kgの二酸化炭素を吸収するとして試算
※省エネセンター資料より

	電力使用量 (kWh/6ヶ月)	CO ₂ 削減量 (kg-CO ₂ /6ヶ月)
2008年度	南側:30,378 北側:31,018	南側:9,083 北側:9,275
2010年度	南側:21,971 北側:28,816	南側:6,569 北側:8,616
効果	-10,610	-3,173
備考	約8世帯が半年で消費する電気使用量に相当	約227本の杉の木(50年杉)のCO ₂ 吸収量に相当

※0.299kg-CO₂/kWhで計算

(出典) まち協資料「JR 吹田駅周辺商店街エコ化対策工事 効果検証報告会」より抜粋

- ✓ なお、電力売却による資金調達の結果は事業途中に当たるため実現に至っていない。

7. 今後の課題・展望

- ✓ まち協の当面課題は、引き続き 22 年度取組事業の経済効果をモニター調査・把握するとともに、電力売却による基金創設を目指していく。
- ✓ 短期事業（21～32 年度まで）のうちでは、基金創設後に 3 商店街以外のエコ化モデル

商店街の拡大整備を目指していく。

- ✓ また、期間・時間限定型トランジットモール化（歩行者天国）の実現とともに、太陽光発電設備から得られる電力を活用した「足湯」などのアイデアが挙げられており、アーケード街施設・設備の充実を図り、商店街におけるコミュニティ空間づくりを目指していく動きがうかがえる。